

ICTを活用した教育の推進



各教科等の指導におけるICT活用の基本的な考え方

教材・教具や学習ツールの一つとしてICTを積極的に活用し、資質・能力の三つの柱をバランスよく育成する。

〔留意点〕

- 資質・能力の育成により効果的な場合に、ICTを活用する。
- 限られた学習時間を効率的に運用する観点からも、ICTを活用する。

教育の情報化の推進に向けた国・県の最近の動き

「教育の情報化の推進に関する法律」(令和元年6月施行)

教育の情報化の推進に関し、施策の推進と人材育成のため制定された。

「GIGAスクール構想の実現」(令和元年12月閣議決定)

1人1台端末及び高速大容量の通信ネットワークを一体的に整備し、多様な子どもたちを誰一人取り残すことのない学びを実現させる。

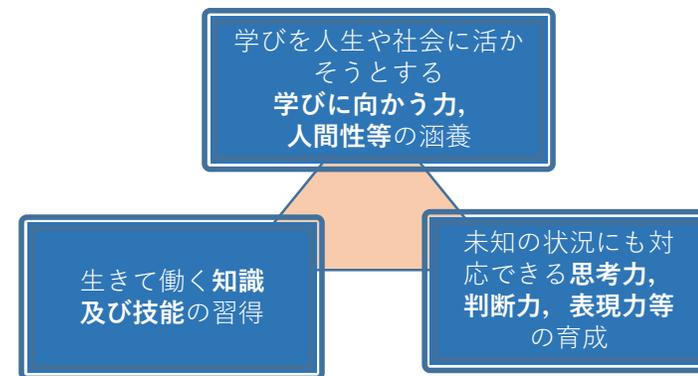
「GIGAスクール構想の加速による学びの保障」(令和2年4月)

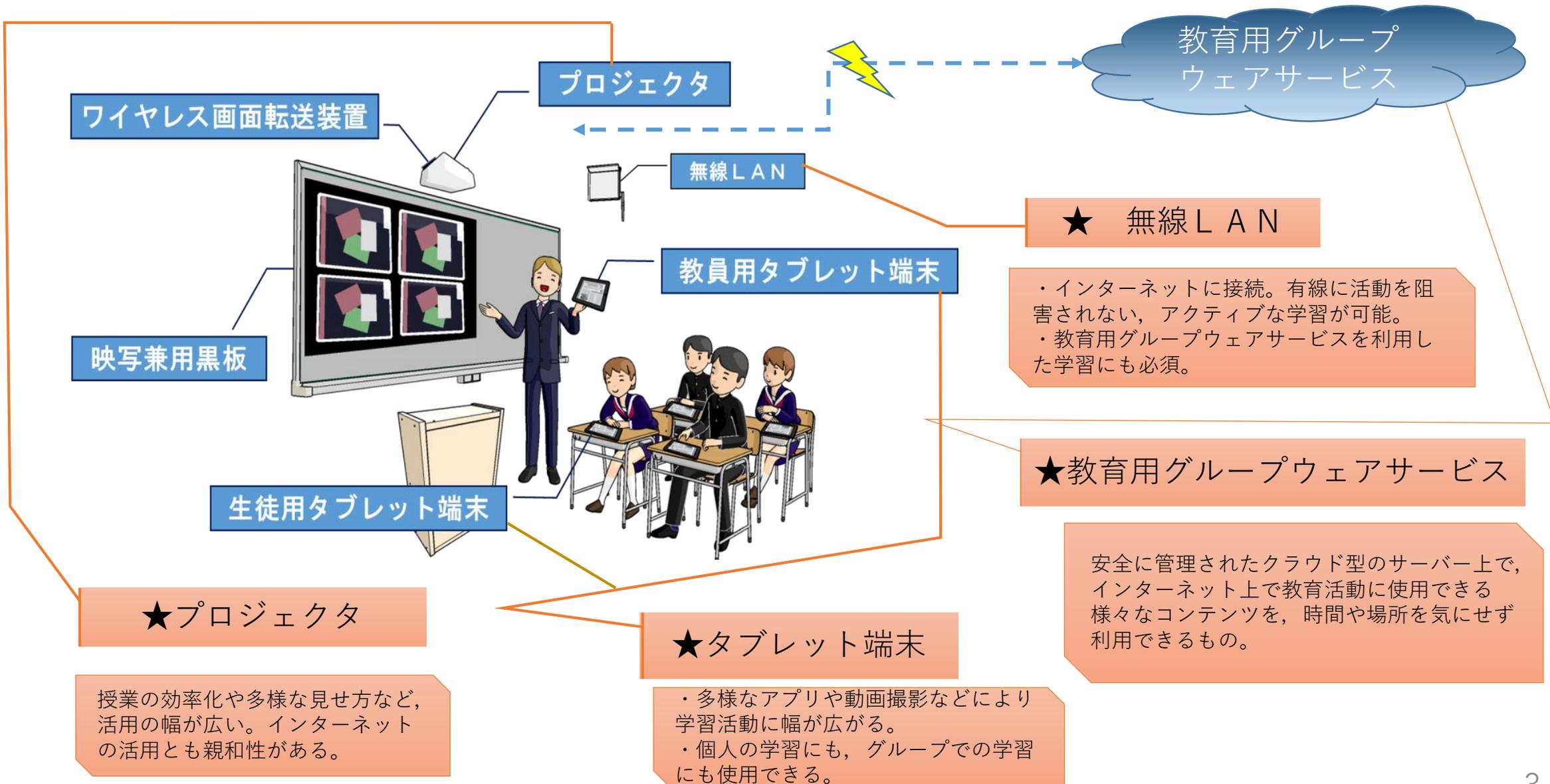
「1人1台端末」の早期実現や、家庭でも繋がる通信環境の整備などにより臨時休業等の緊急時においても学びを保障できる環境を早急に実現する。

「みやぎデジタルファースト宣言」(令和2年9月)

「デジタルファーストによる県民サービスの向上」を図るため、「教育分野におけるデジタル活用を推進」する。

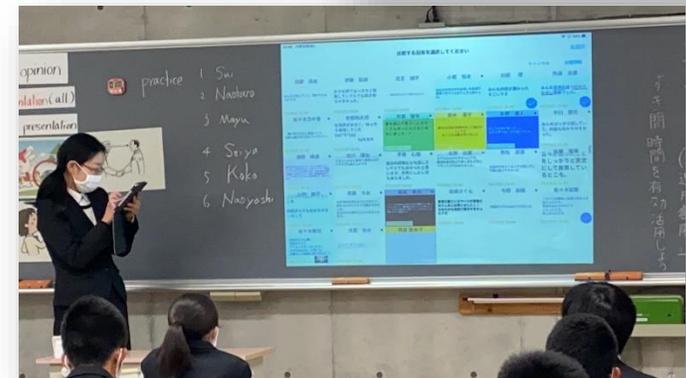
<資質・能力の三つの柱>





文部科学省の「スーパー・サイエンス・ハイスクール」事業の指定を受けている古川黎明中学校・高校の事例。
多くの教科で多様な活用が行われています。

R2.11.10公開研究会での授業内容一覧



学年・科目	授業内容のキーワード
中2 英語	まとまった英文を読み、既習事項を使って要約する。 ICT (評価の共有、生徒がiPadをミラーリングして発表)
中3 探究Jr. III	ロイロノート等を活用した情報の精査 (情報活用能力の育成) 大崎耕土 協働学習 思考ツール 動画などの撮影・編集
高2 現代文B	各自のスマホ ロイロノート (設問に回答・提出して授業へ。授業で解答を共有・差異の確認・比較検討・評価)
高1 SS 数学A	課題学習 倍数の判定法×合同式・余りによる分類 グループ活動 ロイロノート 思考過程のカード提出による共有 他班へのカード送信
高2 日本史A	初の本格的政党内閣・原敬内閣とは 資料活用・考察・表現 ICTで情報共有 個人で発散思考→集団→個人
高1 生物基礎	神経による調節：自律神経系 (交換神経系と副交感神経系) ロイロノートによるプレゼン共有 協働学習 ジグソー法
高1 C 英語 I	グループに1つずつ惑星を割り当て、調べたことをプレゼンしあう。 Keynoteで作成し動画で描き出しロイロノートに提出
高2 家庭基礎	消費生活「持続可能な社会に向けた取り組みを考えよう」協働学習 ジグソー法 ロイロノート (プレゼンテーションソフトとして使用)
高1 SS 探究 I	探究テーマを動画で発表 COVID-19でも動画発表でできる。 動画はいろいろ使える いろいろ分かる 最後に自己評価をFormsで
高1 SS 社会と情報	経済産業省 Life is Tech! WEBプログラミングを楽しく、主体的に対話的に

iPadのアプリを使用してひらがなを学習する場面



会計アプリを使用して模擬販売学習をする場面



しょうひん	かず	きんがく	しょうひんいちらん
コースター	1	¥100	コースター
たわし	1	¥100	たわし
くるみぼたん	1	¥100	くるみぼたん
こものいれ	1	¥400	こものいれ
青とうがらし	1	¥100	青とうがらし
ぼこぼこ座布団	1	¥600	ぼこぼこ座布団
ごうけい		¥1400	
もどる			かいけいへ

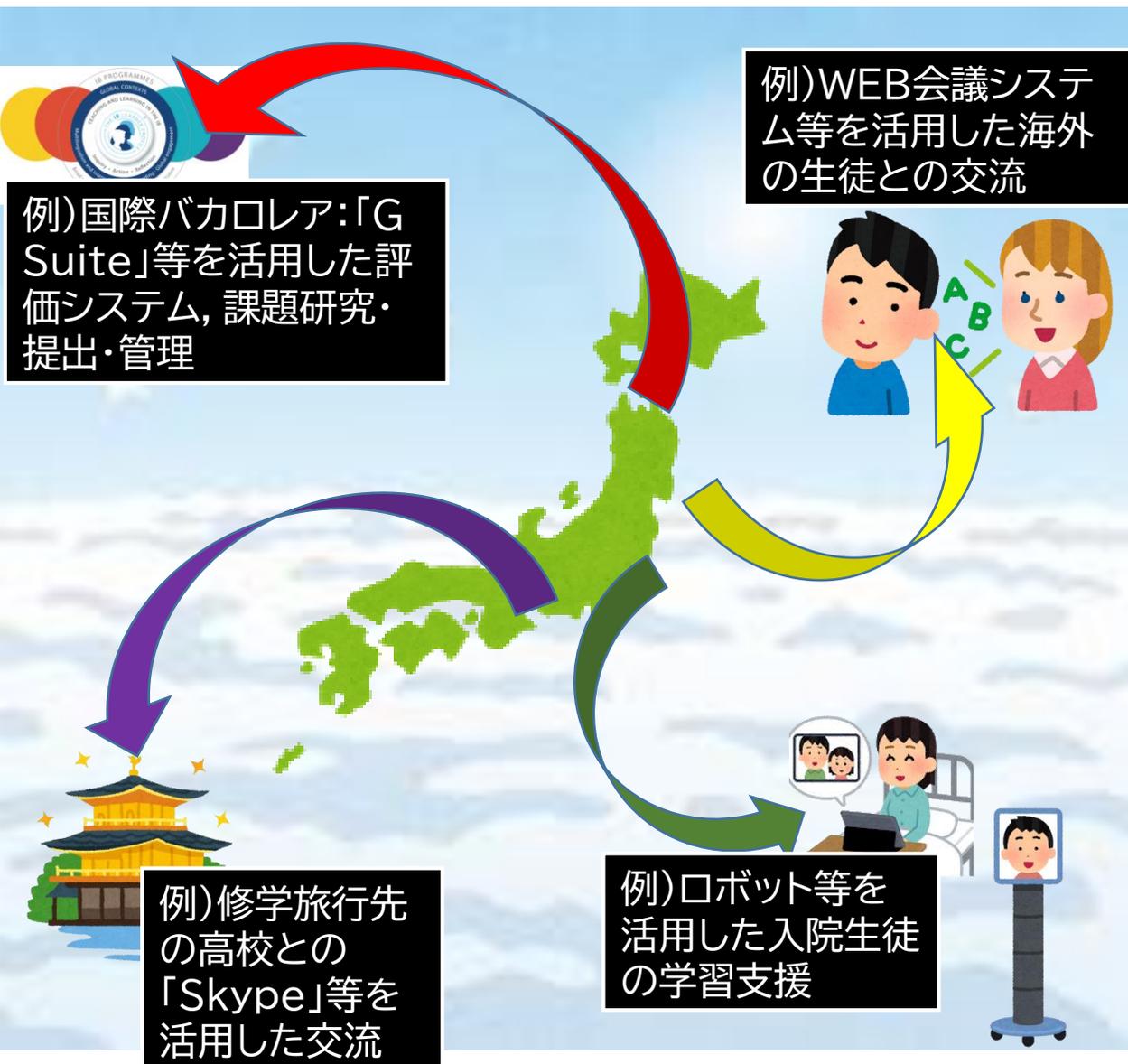
発語が苦手な生徒がアプリを使用して楽しみながら発語を練習する場面



修学旅行の自主研修で地図アプリを活用する場面



事例③ 拡がりのある教育活動に



事例④ 個別最適な学びを (モデル事業等の検討)

- 授業や家庭学習を効果的に推進するための教育用グループウェアサービスの活用
- 不登校の児童生徒の学びの支援・確保にも活用
- AI・タブレット対応ドリル教材の活用による「つまずき」の解消

■学習履歴を管理する
プリントの学習結果, 学習時間, 学習回数などの進捗状況をクラス単位, 個人単位, プリント単位で確認できます。

■児童・生徒の変化がわかる
学習者の成績変化の状況や健康状態を一覧で確認することができ, 学習者の変化がわかります。

学習者名	最終学習日	累計学習時間	平均学習時間	平均点	成績変化	印刷プリント 学習状況
010206	2017	4800	00:02:55	61点	●●●●●	生徒の健康状況がわかります
010201	2017	41	00:01:04		●●●●●	成績変化の状況がわかります
010227	2017	6	00:02:06		●●●●●	
010216	2017	6	00:01:42	55点	●●●●●	

- ICTの活用により、個々の児童生徒の状況に応じた学びのアプローチが、これまで以上に可能になります。
- 従来積み上げてきた教育方法も併用して、教育効果を高めていきます。
- 各教科等において育成すべき資質・能力を見据えた上で、各教科等の特質やICTを活用する利点などを踏まえて、ICTを活用する場面と活用しない場면을効果的に組み合わせることが重要です。

課題① 教員のICT活用能力向上

- 総合教育センターにおける「研修の充実」を図り、教科での活用やICT技術への対応を目指すため、これまでより更に、オンラインやHPを活用した研修コンテンツを充実させる

課題② ICT支援員の継続的活用

- 情報化の推進と教員の校務の負担軽減が求められ、ICT支援員の重要性が増しており、本県においても配置を検討している。
- 教員のICT活用能力の向上を図り、好事例を横展開するなどして、県内全域でのレベルの底上げを図るためには、外部人材の活用も重要であり、継続的な配置が求められている。

課題③ タブレット端末の充実

〔教員用タブレット端末〕

- 現状は、授業を担当する教員全体の6割程度の整備率。

〔生徒用タブレット端末〕

- GIGAスクール構想の前倒しにより、小・中学校での1人1台端末整備が加速化され、今年度内に概ね整備が完了する見込。
- 一方、高校生は国の補助対象外。